

吉里吉里学園の施設一体化について

大槌町教育委員会学務課
令和7年8月21日

現状の整理と課題認識

- 平成24年4月～小中一貫校（施設分離型）で運営
- 児童生徒数が年々減少傾向
- 校舎は老朽化が進行し、長寿命化改修が必要な時期
- 時代に合った学習環境の整備等の改修も必要



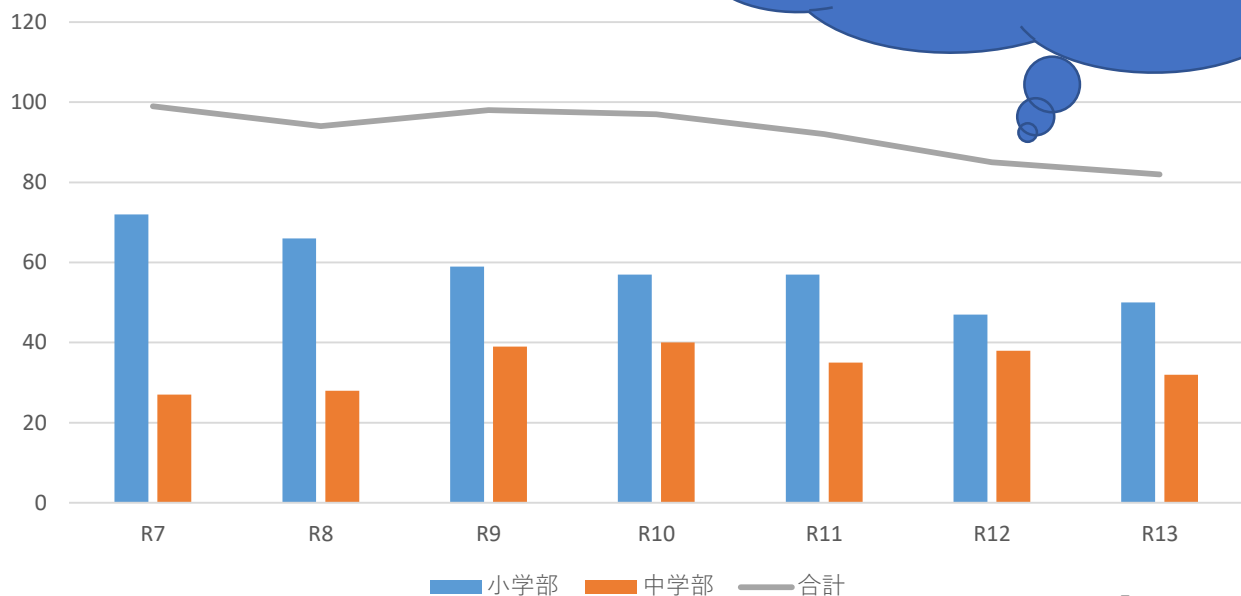
吉里吉里学園中学部
建築年 H5年



吉里吉里学園小学部
建築年 H16年

児童生徒数の見通し

当面の間は完全複式
学級にはならない



[単位：人]

	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
小学部	72	66	59	57	57	47	50
中学部	27	28	39	40	35	38	32
合計	99	94	98	97	92	85	82

PTAからの要望

昨年10月 吉里吉里学園PTA様から町へ要望書を手交



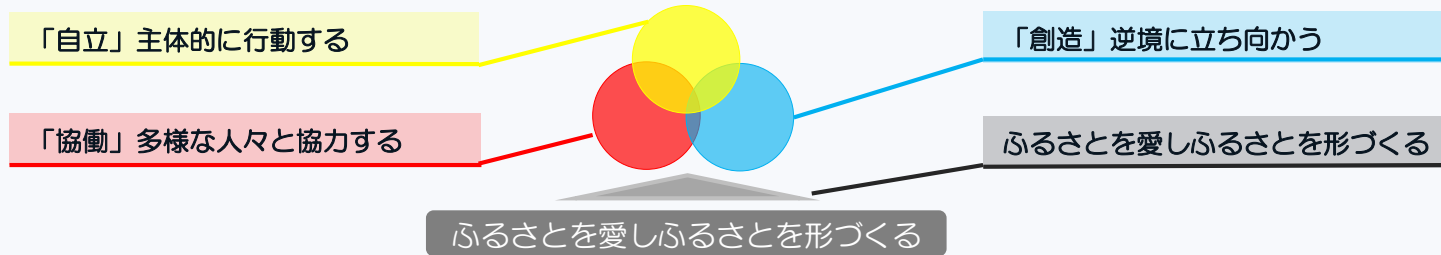
- 生徒数の減少により、中学部のみでの活動に限界を感じてきている。
- 運動会と文化祭をすでに小学部を会場に合同開催している。

- ↓
- 今後は、小学部の校舎での一体型教育が望ましい。
 - 時期については、児童生徒数の推移をみながら地域と協議しながら決定してもらいたい。

教育大綱について

大綱の理念 学びがふるさとを育て、ふるさとが学びを育てる町 おおつち

町民のあり方・目指す姿



教育大綱
基本方針

“2050年の大槌をつくる教育を「ともに」つくる”

- ①これからの大槌をつくる新しい学びをつくる
- ②0歳から18歳までの一貫した魅力的な教育をつくる
- ③地域と共に学び合う学校をつくる
- ④誰もが安心して学ぶことのできる大槌の教育をつくる
- ⑤学びに来たくなる大槌の教育・学習環境をつくる
- ⑥教育関係者が働き続けたくなる環境をつくる
- ⑦世代を超えたつながりある地域をつくる
- ⑧命を守る防災学習の在り方をつくる

施設一体化する場合の検討

○義務教育学校制度の導入

- 9年間の一貫教育
- 1人の校長が全学年を統括
- 自治体や学校ごとに学年の区切りを変更可能

期待される効果

- ▶ 中1ギャップの解消
- ▶ 教員の加配、小中教員の協働
- ▶ 9年間の系統的な教育が可能

○小規模特認校制度の導入

- 通学区域に関係なく特定の小規模校への就学を認める制度
- 少人数教育の利点を活かし、特色ある教育活動を推進

期待される効果

- ▶ 多様な学びと交流
- ▶ 地域教育資源の活用

地域住民懇談会の結果

- 日時：令和7年7月14日（月） 18:30～19:15
- 場所：吉里吉里分館 • 出席者数：23名



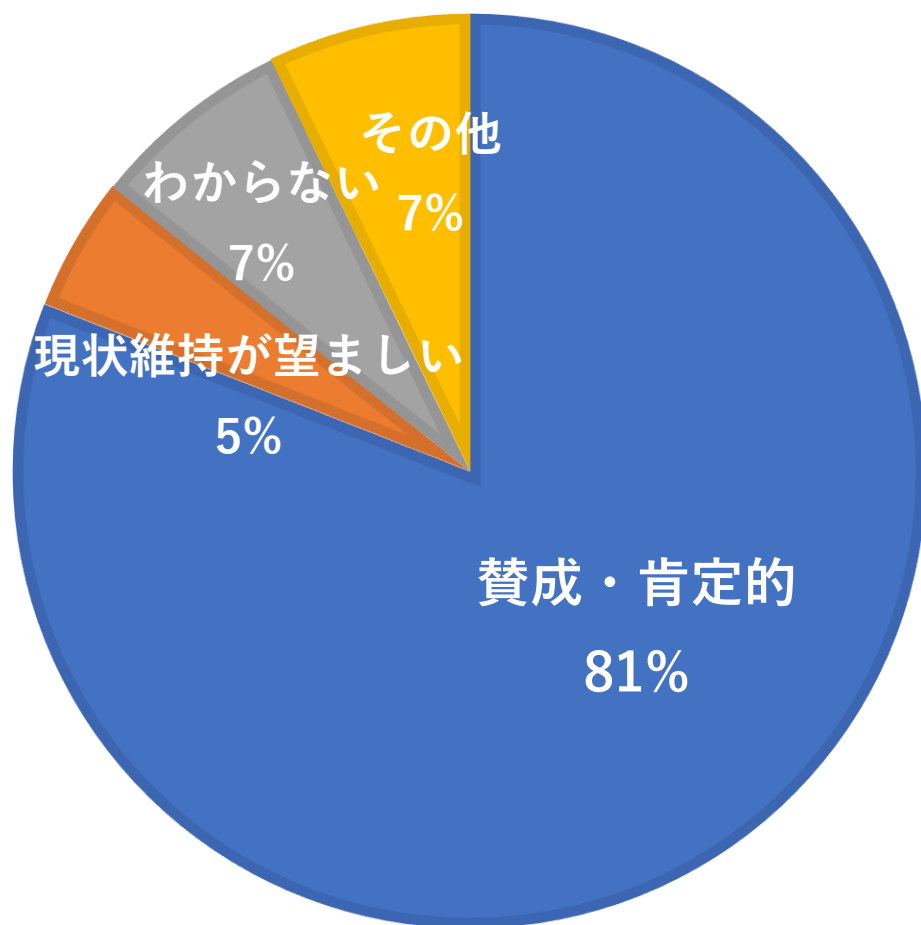
■参加者からの意見等

- 施設一体化にはほぼ肯定的
- 早期の環境整備と先進的な施設への期待
- 移住促進や交流活性化を狙った小規模特認校制度の活用の提案（小中版はま留学）

保護者アンケートの結果

- ・ 吉里吉里学園の保護者61世帯に案内文書を郵送
- ・ 案内文書からアンケートサイトにアクセスして回答（回答者：42人）

集計期間：7月10日～25日
施設一体化についての意見



回答	人数
賛成・肯定的	34人
現状維持が望ましい	2人
わからない	3人
その他	3人

保護者アンケートの結果

■「その他」を選択した方の主な理由

- ・人数の少なさから、大槌学園と一体化するべきだ

■町に伝えたいこと

- ・中1ギャップも成長には必要。小中学校の交流はすでに活発なので現状維持で良い。
- ・一体化するには小学部の方が安全面やプールの有無などを考え妥当である。
- ・今現在すでに人数が少なくPTA活動も小中合同があり、休日の奉仕活動など多いように感じられる。保護者の負担減少も考えて一体化するなら早く一体化してほしい。

教職員からの意見

■小学部教職員の意見まとめ
主に施設整備の要望

■中学部教職員の意見まとめ
中学生が窮屈になるのではという不安がある。そのため、施設整備に配慮してほしい。

コスト比較

施設一体化した場合のシミュレーション

期間：令和6年度～令和20年度の15年間

維持費・改修費	施設一体化による削減額	減額理由
維持費	△55,000千円	中学部校舎不使用による
改修費	△175,000千円	【施設一体化する場合】① 小学部施設一体化改修：140,000千円 【施設一体化しない場合】② 小学部施設築20年改修＋中学部施設築40年改修：315,000千円 【①－②】△175,000千円
合計	△230,000千円	

15年間で2.3億円程度のコスト削減効果

町の方針

1 これまでの町の捉え方

- ・吉里吉里学園は、保護者や地域住民と連携・協働し、地域の教育、コミュニティ、防災を支える重要な拠点
- ・教育大綱に沿って検討する必要がある、今後の児童・生徒数を考慮し、学校を適正規模で適正配置する。
- ・施設一体化する場合、あわせて義務教育学校及び小規模特認校制度を導入することが効果的

2 施設一体化の主な利点の整理

- ・中1ギャップの解消、教員の加配と小中教員の協働
- ・地域活性化への寄与（吉里吉里の教育文化の存続、魅力化による「教育留学」等）
- ・地域の教育力を活かした学校運営
- ・コスト削減

町の方針

3 課題への対応

- ・施設の老朽化については、早期に長寿命化に係る改修を行い、併せて時代に合った学習環境の整備（トイレの洋式化等）を実施する。
- ・教室数の不足は、間仕切り等で対応可能
- ・校庭と体育館の面積が学校設置基準を下回るが、増築等をせずに、教育活動で達成すべき内容は教科指導の工夫によって保障可能
- ・早期に学びの環境を整えることへの期待については、精査しながらスピード感をもって着実に実施
- ・義務教育学校特有の課題については、多様な活躍の機会や異学年交流の機会創出、教科担任制や乗り入れ指導の推進などにより対応

町の方針（結論）

教職員の要

望

保護者の要

見

子供良

意見

今後の児童生徒数の減少等を総合的に判断した結果、小学部の施設へ一体化し、教育大綱に掲げる方針“2050年の大槌をつくる教育を「ともに」つくる”の実現に向けて、義務教育学校制度と小規模特認校制度を活用しながら魅力的な教育環境を整備します。

児童生徒数の減少

学校環境

吉里吉里学園施設整備基本方針

1 小学部に中学部を施設一体化します。

(1) 施設一体化する理由

- ・児童・生徒数の減少に対応し適正な施設規模に近づける。
- ・各校単独での行事開催が難しくなっている。

(2) 小学部に一体化する理由

- ・中学部（平成5年竣工）より小学部（平成16年竣工）の施設が新しく、健全度が高い。
- ・中学部の場所は令和4年3月付け岩手県津波浸水想定エリア内に位置し、小学部の方が安全である。

(3) 施設一体化工事について

- ・原則新築・増築・改築（建て直し）は行わず、改修に留める。
ただし、授業に大きな影響が出ることが予想される場合はその限りではない。

吉里吉里学園施設整備基本方針

2 施設一体化工事と同時に、長寿命化に係る改修工事を実施します。

吉里吉里学園小学部において、長寿命化に係る改修工事が必要な時期であることから、施設一体化工事を同時に実施することで工期及び費用の圧縮を図る。

また、洋式トイレ・空調の増設、電灯LED化、防犯設備設置等、時代に合った改修を検討する。

吉里吉里学園施設整備基本方針

3 施設一体化にあたり、義務教育学校及び小規模特認校制度を導入します。

(1) 義務教育学校とする理由

- ・ 中 1 ギャップの解消
- ・ 教職員の加配及び小中職員の協働
- ・ 9 年間の系統的な教育が可能（指導時期・時数を柔軟に設定可能）

(2) 小規模特認校制度を導入する理由

- ・ 小規模校として特色ある教育を行うことから、少人数での学びを希望する児童・生徒のニーズに応えることができる。

吉里吉里学園施設整備基本計画

1 実施内容

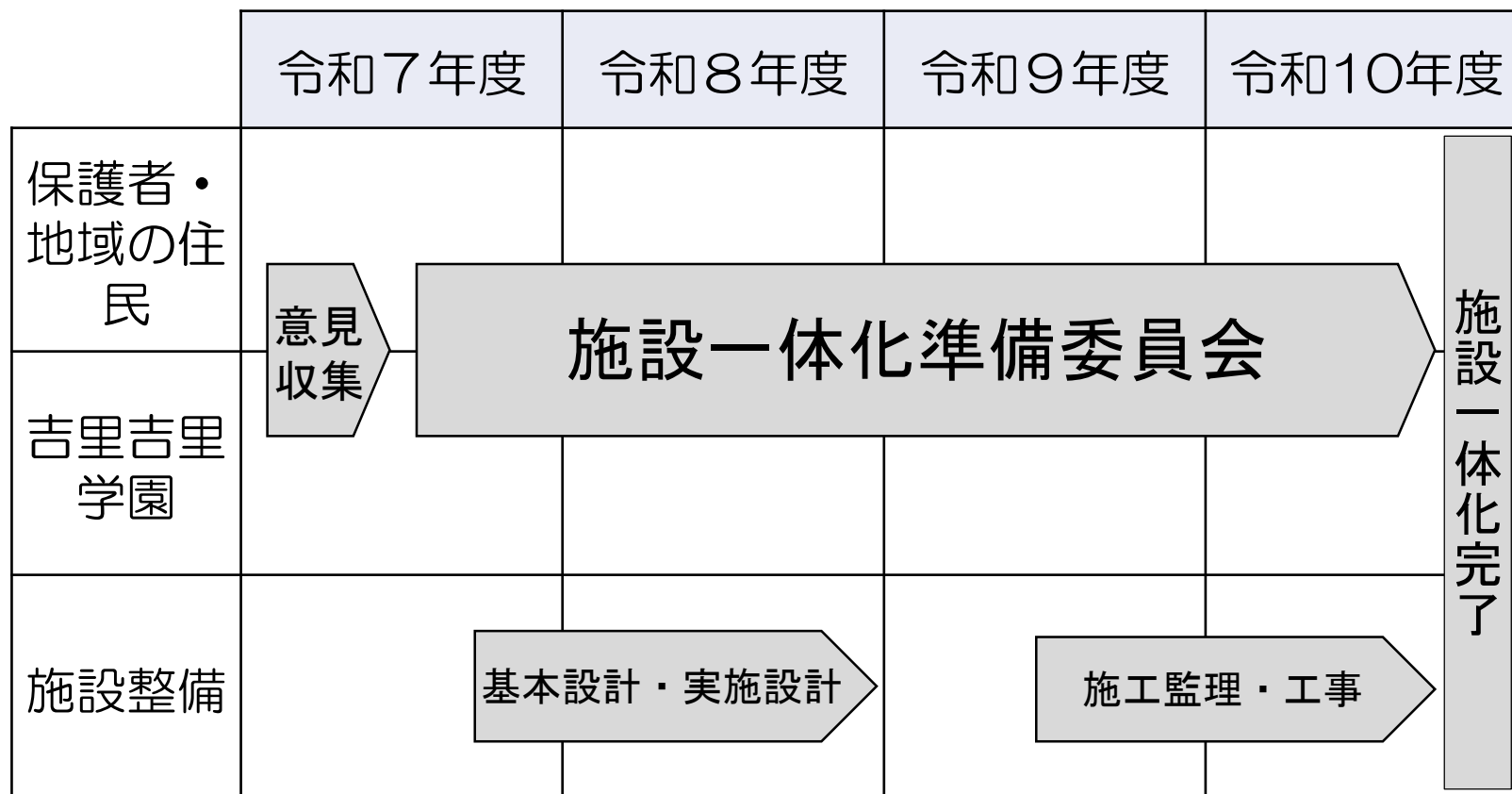
- ・「吉里吉里学園施設一体化準備委員会」の設置
- ・整備を可能な限り早期に実施
- ・工事中、中学部校舎で小学部の授業ができるよう検討
- ・学校施設環境改善交付金の活用等、適切な財政措置を図る。

2 工事の内容

- ・施設一体化工事
- ・長寿命化に係る改修工事
- ・その他工事

吉里吉里学園施設整備基本計画

3 スケジュール



今後のスケジュール

- ・12月議会補正予算で設計費及び「吉里吉里学園施設一体化準備委員会」の予算を計上予定
- ・今年度中に「吉里吉里学園施設一体化準備委員会」を開催